

## 2018年度活動報告 CJP授業 : 聴解B

著者	浅津 嘉之
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	8
ページ	88-88
発行年	2019-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10236/00028122">http://hdl.handle.net/10236/00028122</a>

## 2018 年度活動報告 CJP 授業：聴解B

浅津 嘉之（関西学院大学日本語教育センター）

### 1. クラス概要

本授業は中級以上の学習者を対象とした選択科目であり、目標は 1) さまざまなニュースについて概要を理解できるようになる、2) 聞いた内容について、説明し、話し合いができるようになるである。授業は週 1 回（1 回 90 分）であり、教科書は指定せず、各放送局のホームページで配信されているニュースを使用した。

### 2. 授業内容

受講生の日本語レベルにばらつきがあるため、授業は教師がニュースを選んで全員で視聴するのではなく、学習者が視聴したいニュースを自分で決めるスタイルとした。そのため、受講生がそれぞれ一台のパソコンを使用できる PC 室で行った。

1 回の授業の構成は、前半を「一人の時間」、後半を「みんなとの時間」とし、前半は「できるだけたくさんニュースを視聴する時間」と「1 つのニュースを何度も聞いてしっかり理解し、要約する時間」とした。後半では、ペアや小グループとなってその要約をクラスメートに発表し、互いのニュースを紹介したりその話題についてディスカッションしたりした。このようにして時間を区切り、1 つ 1 つの活動の目的も明確にすることで、メリハリをつけて集中して聞く練習に取り組めるようにした。また、毎回活動シートを用意し、そのニュースを選んだ理由や内容の要約、発表後のふりかえりを書いて提出するようにし、教師はコメントを書いて次回返却した。

### 3. 成果と今後の課題

期末アンケートの結果から満足度を見ると、受講生 8 名中、「聞く活動」に対しては 7 名が「そう思う」、「話す活動」と「書く活動」にもそれぞれ 6 名が「そう思う」と回答しており、ニュースの視聴だけでなく要約と発表を授業に組み込んだことが影響していると考えられる。また「授業の進度は適切だった」に対しては 7 名が「ちょうどいい」、「練習の機会は十分に与えられた」に対しても 7 名が「そう思う」と回答しており、日本語能力に差のあるクラスでも、個々のニーズに対応した授業展開ができたと言える。しかし、自由記述には 1 名だけだが、毎回自分でニュースを探すのは大変だったということが書かれていた。これに対しては、教師も気になったニュースを紹介したり、ニュースから離れたジャンルの視聴をしたりする回を増やすことで今後対応するようにしていきたい。